

# 歯のレントゲン写真で骨密度測定

全国で約千二百万人の患者がいるといわれる骨粗鬆症で、姫路市の歯科開業医、高石佳知さん(五〇)が早期発見につながるソフト「簡易骨密度測定システム」を開発した。歯科で撮影するレントゲン写真とパソコンがあれば、短時間、低コストで骨密度を測ることができ

る。高石さんは日本や欧米で特許を出願、申請中。六月二日からカナダ・トロントで開かれる「国際骨粗鬆症財団(I OF)世界会議」で発表する。

骨粗鬆症は、カルシウム不足などから骨の強度が低下し、骨折しやすい状態に

## 「骨粗鬆症」の早期発見期待

なる。自覚症状がないまま進行するため、患者の約20%しか治療を受けていないとのデータもある。

骨折後に症状に気付くケースが多く、寝たきりや認知症になるケースも後を絶

### 姫路の歯科医 システム開発

たないが、早期発見により薬で骨密度を上げることが、骨折を防ぐことは可能という。

今回開発したソフトでは、歯科で撮影したレントゲンをパソコンに取り込み、明るさを表す「輝度値」

## 来月、世界会議で発表

から歯の周辺にある歯槽骨の骨密度を数値化する。同分野で最も権威があるときされる米国の学術誌「オステオポロシスインターナショナル」で紹介された。

高石さんは、I OF理事で今年四月に亡くなった大阪市立大の森井浩世名誉教授と「骨粗鬆症と歯周病との相関性」などを十年にわたり共同研究。世界会議では、ほぼ確実に骨粗鬆症になるという閉経後の女性の臨床データを基に発表する予定だ。



パソコンを使ってソフトの説明をする高石さん(姫路市内)

トの普及で、骨粗鬆症による骨折を少しでも減らせれば」と話す。

大阪市立大で骨カルシウム代謝疾患を研究する三木

隆(助教)は「これまでにないアイデアだ。欧米でも使われる可能性があり、今後、医療効果が証明されれば、爆発的に普及するかもしれない」と評価している。

(塩田武士)